

続々・松代藩の柀津氏伝来の鷹書

二本松泰子

はじめに

松代藩の家老を代々勤めた柀津氏は、鷹狩りに所縁深い一族であった(注①)。すでに稿者は、当家に伝来した新出の鷹書を一冊取り上げ、一丁表く五十三丁表までの本文を翻刻紹介した(注②)。本稿では、その続きとなる五十四丁表く六十七丁表までの本文を翻刻する。本稿を以て当該書の全文翻刻が完成する。

当該テキストの書誌は以下の通り(注③)。

柀津泰夫氏所蔵。外題無し。内題無し。縦24.0^{センチ}×横17.6^{センチ}。四つ目綴じ。袋綴じ。半葉十行。漢字平仮名交じり文。全六十七丁。裏表紙見返しにも本文有り。五十三丁裏、六十丁裏は白紙。五十四丁表く六十丁表に「白鷹記」の本文(有注)。六十一丁表く六十丁表に「架と緒」の図解。奥書無し。

【注】

- (1) 二本松泰子「近世期における柀津氏嫡流の家伝について―新出の柀津氏系図を端緒として―」(福田晃・中前正志編『唱導文学研究第十二集』所収、二〇一九年十一月)、二本松泰子「信州諸藩の鷹狩り―松代藩の柀津氏の鷹書―」(『グローバルマネジメント』第二号、二〇二〇年一月)。
- (2) 二本松泰子「松代藩の柀津氏伝来の鷹書」(『研究紀要(長野県国語国文学会)』第十三号、二〇二〇年三月)、同「続・松代藩の柀津氏伝来の鷹書」(『グローバルマネジメント』第六号、二〇二〇年一月)。
- (3) 注(1)の拙稿「近世期における柀津氏嫡流の家伝について―新出の柀津氏系図を端緒として―」の再掲。

【凡例】

- 一 翻刻は祢津泰夫氏旧蔵の鷹書によった。
- 一 翻刻に関しては、できるかぎり原文に忠実になるようにつとめ、改行は原本に従った。

一 明らかな誤字や脱字などと思われる箇所はそのまま翻刻し、傍らに（ママ）をつけた。

一 改訂は「をもつて示し、（一オ）のように丁数ならびに表裏を示した。

一 字体は出来るだけ底本の表記を重んじるように心がけたが、異体字など一部通行の字体に改めたところもある。

一 虫食いなどで判別できない文字は□で示した。

本文

白鷹記号後普光遠院殿トメニ條殿撰政岡白良基公御作／凡鷹者瑤光セイキタケハの精氣貯シヤウカタイへて鐘岱シヤウカタイの増巢シヤウカタイに

生たり瑤光とハ星の異名也春鳩其ほしの精と云心也春鳩ハ鳥の中に仁義五常をそなへたるハ鷹也その心をいふ也春ハ鳥になる日也是を鳩と云也／秋戮リク

を行ハ義なり食するにさきをケイ／わすれさるハ敬也敬といふ也鳥をとりて共

するてい之是ハ敬也誅するハ物をころす心也いかや成る／是ハ鷹也遠き

悉見るハ知る也とをき物をもよとく見る是も人の／おもんばかりにたとへたりこれ人に遠

兼といふかことし人も五常とハ／知る知恵を持て代をおさむる故に鷹共か

やうにたとふ也義礼智信／此五常を備て彼衆喙を兼たりとて有り吾朝仁

徳天皇もす野の御人仁／幸ありしより代々の御門片野きんやの五

十四ウ）御狩宇田芹川の逍遙絶事なり芹川山しるのかつらの里に有なり道とハ遠のていなりみかりをなし／あそ

ひしを申也仁徳天皇と申ハ八幡大井の御子也王のみかりありしゆななり／此國スへ唐土より初

て鷹を渡したまいし時の王王のみかりありしゆななり／にてわたらせ給ふ也たかをつかふ事

などもその時初て王のみかりありしゆななり／さため給ふ也片墅ハ山白と河内の境也きんや

とハ／王の御鷹つかわれし野なればたゞもの狩するを魚鏡とハよそ人の／禁制せ

られたる故にきんやとハ申也やかて片のきん魚鏡とハよそ人の／やこと也就中寛平

宮瀧の御幸勝負の寛平ハねん号也此時の王を寛平ほう王と申／御狩から御狩

し給ふ末代鷹の道の亀鏡たるを申宮瀧遊からんのとて別にありたか／おやけるとかやその勝負の様を御覽して御幸なるとて道す

つきをわけて鳥を取せうふほとにせせ給ひ／儀式北墅天神ころお北墅の天神より問給ふ也／しる

なりなり（五十五ウ）大内の鳥曹司に数聯の良鷹をつな魚鏡とハよそ人の／かれ数聯とハあまた

すすも犬のか／数牙逸スゲノイツ／犬をかひ置る母屋の大饗母屋の大きやうにハ御いわひの式も

ありすことなり上客ケヤクリヤウリ料理をたすけい／て前庭をわたされ母屋の大きやう／なり

前庭ハ庭の事也諸国の狩の吏ハ驛路エキロの鈴を鳴て諸国の人狩をさせられ御使など

たいと被下心か驛路の鈴とハ昔ハ馬つ／道ことに夜もひるも大理より御吏を宿た／よりも送けるた

（五十六オ）かや唐にはしめし事也此國も昔ハか／くキ／

の設マツケを催モヨブす糲とハくいの物事也／加之野守の鏡影を尋野守の鏡とハ王の御かり有

るかのさわの水けるを人々見て取る也墅に有水／忍の奥恋の道にま野守の鏡とハ王の御かり有

ふにうつりたり／てたかの木居と人の今帰山の秋の色を添ふ（五十六ウ）

とや墅の原の雪てたかの木居と人の／今帰山の秋の色を添ふ（五十六ウ）

とや墅の原の雪也故事有かとやの原も／なり跡を尋ても田獵テノロウの遊興をてん／とハ

もれもかりの事也遊ハあそぶ也／催ササすササ／事なし抑上古の名鷹ハ天智天皇の

磐手キヤヤ野守延喜聖主の白兄鷹キヤヤ／一條院の鳩屋赤目アコみさこ原の一條

院カラムカクの韓卷藤澤山娥等也これらみな代々（五十七オ）のたかの名也近比世の許せる奇

鷹也寄相なるたか云也爰白鷹其相鷹経鷹とハにたか／叶るのミならず其毛雪白鷹とハ

／書の名也此たかふいふへし誠楚王の鵬をおとせる良鷹にことならず首
 にもあたる也
 頭白綿を良ほうとハよきたか也首頭とハくひの事
 羽毛ハ斑綾を着せたるに似たるうもふとハは毛の事也はなれ
 うとハまたらなるあやの事也／首尾三尺に及
 へり遠くては羽毛／おほく近くてハ羽毛すくなし前に／むかへは
 腹のミ見へて羽翼見へ／すウヨクハツバサ
 はさの事也それる事軒のことしいた／
 たきひらにして中高く目の光明／星に似たり眼うこかすして人に
 對／すりらんひ愁毛しろきいとのことし(五十八オ)／らんひハはなけし
 ちある目のきとハまひ
 さしの事也の前の／みそうね高く簷ひろし／鼻の穴ひろくおほ
 きに口はしうるを／ゑる頂あつく拔出て鳥のかひ子のこと／し肩
 ひらくして身に添たるひすい／の毛なかくくれはとりの毛綾を
 た／／めりひすいの毛ハわきに有けなり
 れはとりのけハかた又有け也「(五十九オ)てふせんの毛てうせんの毛とハ
 かた四つけの事也
 うち羽をさし鈴をひしくかことし一の／羽ふしハ高く二の羽ふ
 しハうすしかくたい／は廣くして車馬をとをす／はかりなりかくたい
 とハあし
 の両方の
 あいた也ほうきやう／の毛長くき衣の毛白綿をはさめり／羽翼直して
 ほどのことししつり／の骨大にも／あつくなくかひちのほね事な
 り／毛なしはき隠て短し尾ハ屋形「(五十九ウ)拊にきれてたん
 く／しろしそのふの
 間白し／ひくわひたすけせまち尾ならしは／石うちしは
 ひきた／一枚にタヌミ置なせり／腰すこやかにして足ほそきにかれ／
 て爪くろくうるおへりうしハいかにもつよき事と云也尾ハみ
 もなくしてかれたるをよきとゆふなり／かけ爪うち爪爪の色ハ黒くし
 るをよしと云かけ爪又うしろのゆひの
 爪也うち爪前の大きなるゆひの爪なり「(六十オ)
 なりとつすへとハたけこかゆひ
 の事也かあるこハ小ゆひ也惣て一部の／善相センサウへんくのきやう古今ケイ
 ノイ其類す
 く／なし又神術シユツ
 ノウ諸能の勝たること記／するにいとまあらず此故
 に萬人一覽／を望緇素羽眼を驚さすといふこと／なし誠我国の奇

物他州の異禽キ／たるをや仍粗足ホツを記する者也」(六十ウ)

一 小くさり五つはい鷹に三大くさり／五つ小くさり五つの時ハ大く
 さり三甲乙也／

〔図①〕(六十一オ)

一 小くさり三大く／さり五又ハふ替は／い鷹に用也三十五／日ハ一
 寸を手先ゑ下／十五日ハ下へ何も青／白の繋やう也甲乙也／

〔図②〕(六十一ウ)

一 小くさり五大くさり二を引そろゑて房を下へ／とむるなり丙丁の
 鷹なり／

〔図③〕(六十二オ)

一 小くさり三大くさり／十是も房を下ゑ／さけへし丙丁の／鷹の繋
 やう也／

〔図④〕(六十二ウ)

一 小くさり五大くさり二是ハ慶事の鷹の繋／やう也房を上ゑなるや
 うにとむる也／

(図⑤) (六十三オ)

一 小くさり五大くさり／四是も慶事の／たかの繋やう也／

(図⑥) (六十三ウ)

一 小くさり五大くさり五一寸をさけて大緒の崎の／房を下へさけと
むるなり壬癸の鷹の繋やう也／白拺鷹ハやまへ／所なくて繋／へ
からす是も／ゑと繋と云也／

(図⑦) (六十四オ)

一 小くさり五大く／さり六是も壬癸の／鷹の繋やう也／拺替に繋へ
し／

(図⑧) (六十四ウ)

一 是ハ芝居の架なり繋やう三くさり口傳あるへし／

(図⑨) (六十五オ)

(図⑩)

一 小くさり三両方ゑ分てかやうにとむる事あり／神場の鷹の繋やう
なり (六十五ウ)

一 佛前に繋時ハ小くさり斗見せて大くさりをハ見せず／架たれうし
ろへきくる事もあり是ハ佛前に御鷹を／すゑぬと云心得／なり／
甚架也／一 架布金欄／段綾よし又白／練に家の小文／をも書事
／あり又梶の葉／をも書なり／

(図⑪) (六十六オ)

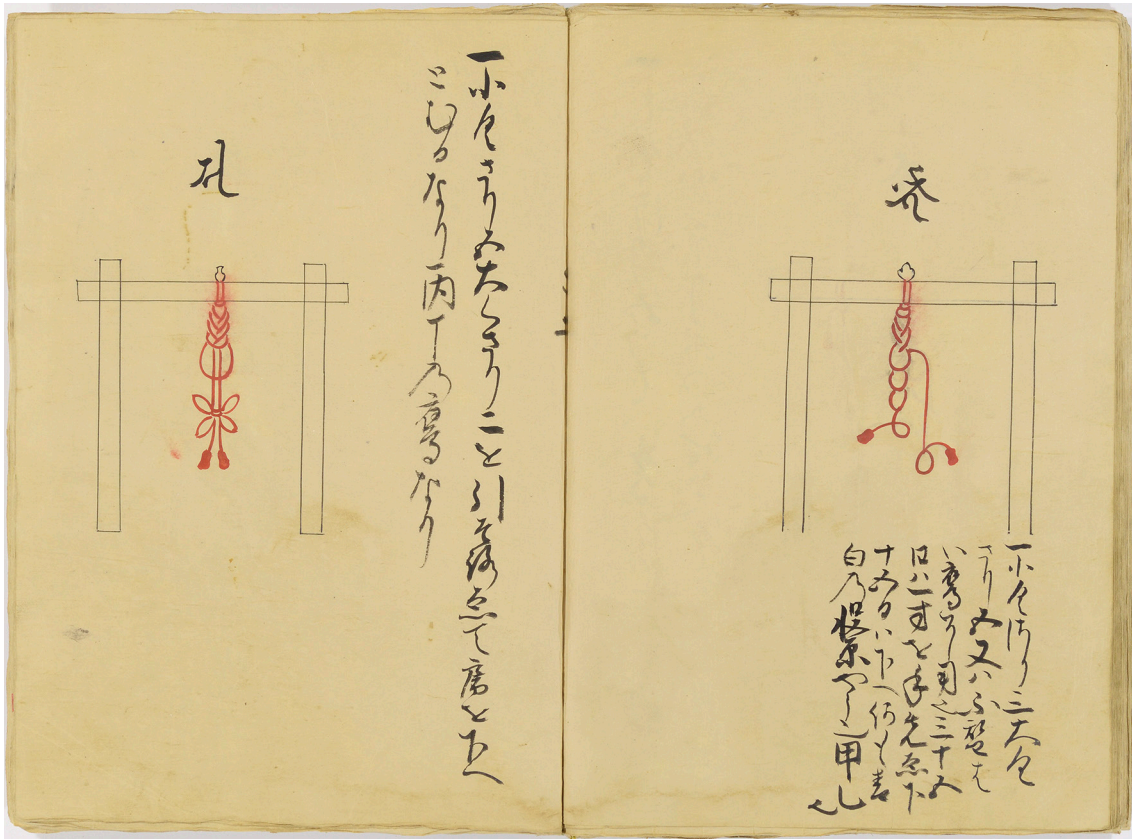
一 是ハ二鷹つなく／やうなり鷹ひと／本といふときの／繋やう口傳
あり／

(図⑫) (六十六ウ)

一 此繋様口傳

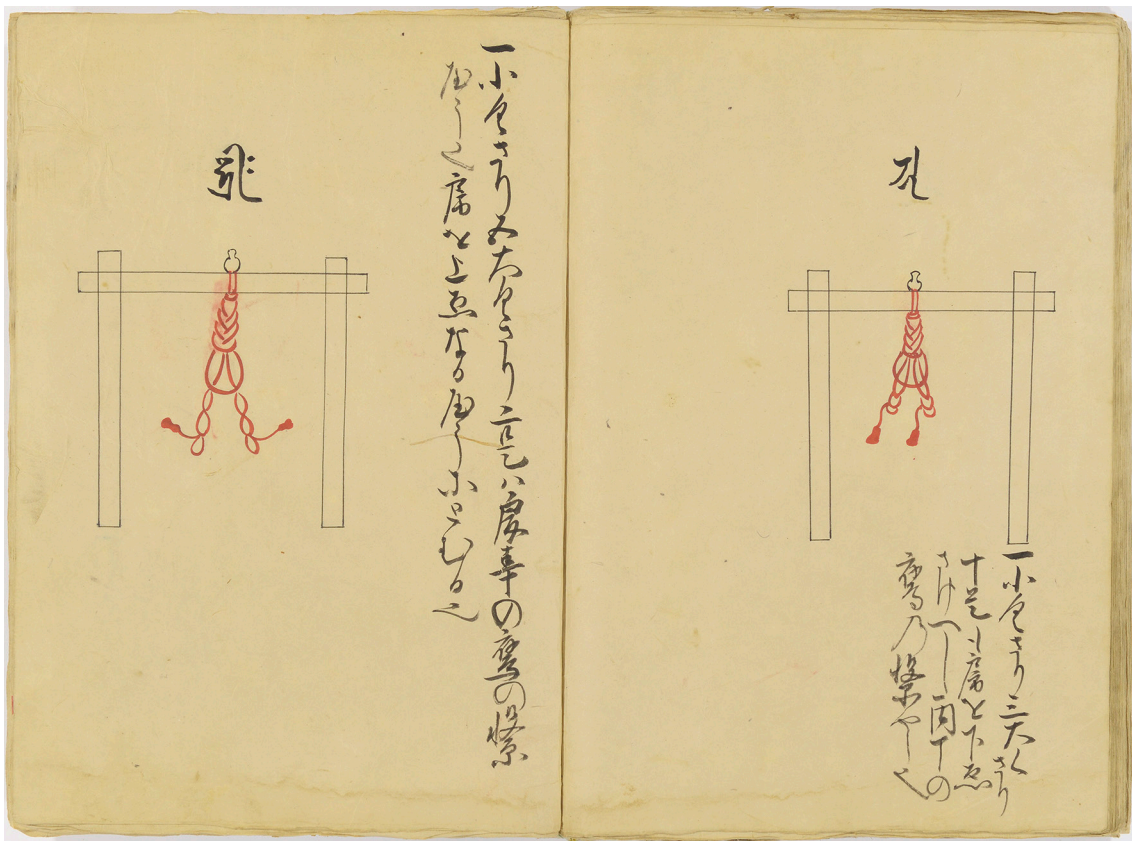
(図⑬) (六十七オ)

一 野陳其外とまり鷹の時分俄ニ架衣なくて／物を架に打懸たるにつ
なくへきやう大緒を／両方の架へ一からミつくまきてすへにとも
と／おりの本へよせてつねのことくくきるへし／口傳にあり／
一 白ノ餌刀七寸二分餌こきハ天目ゑんさん／ほやわんにてからへ
し (六十七ウ)



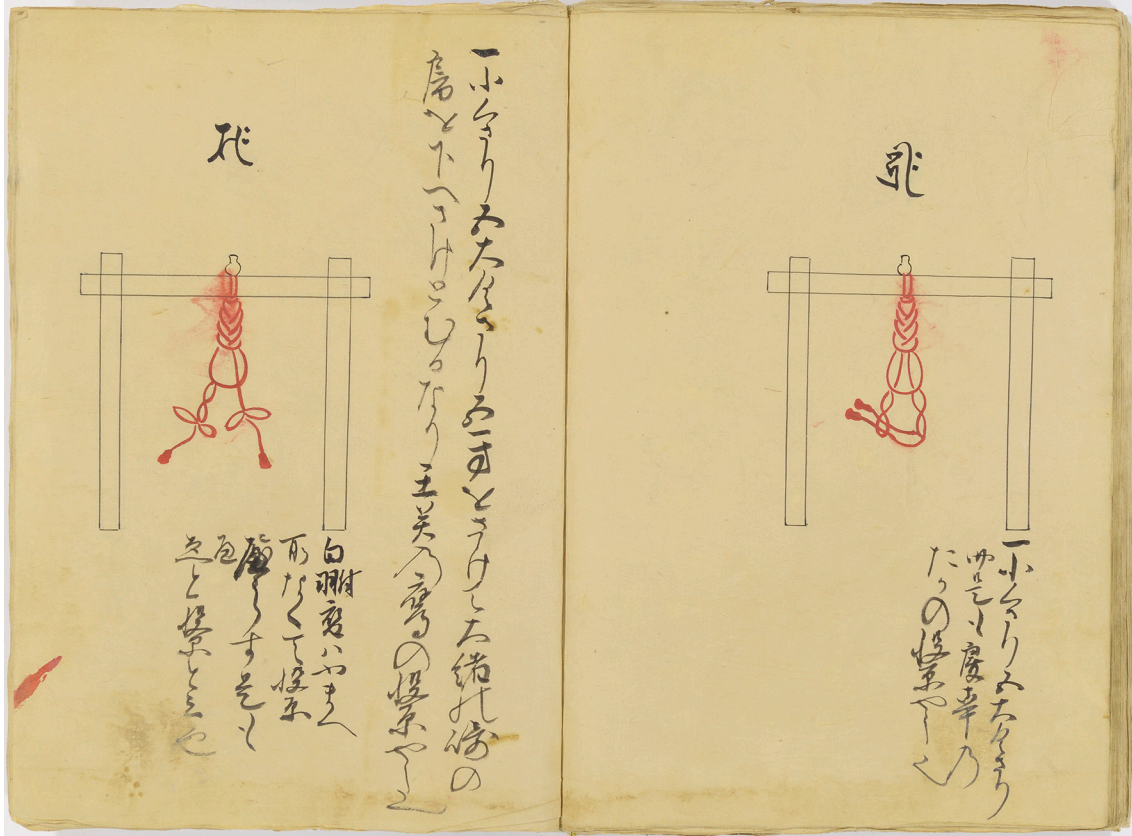
図③

図②



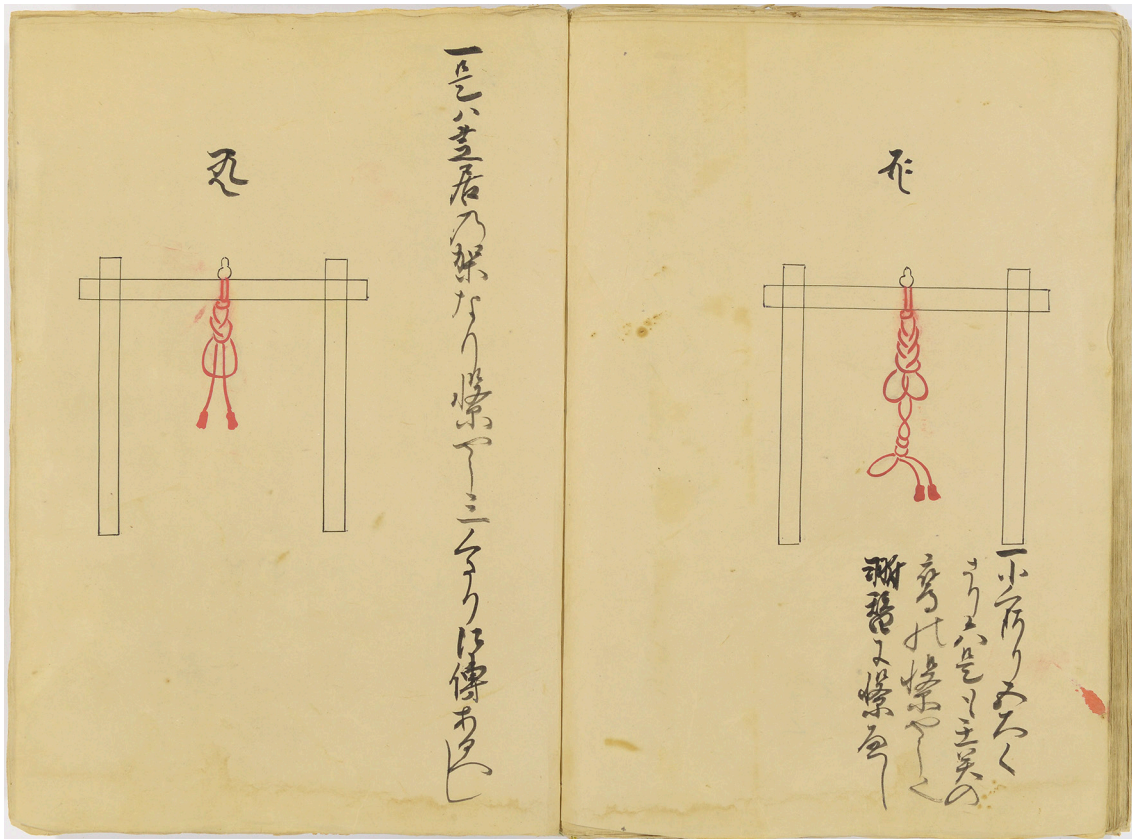
図⑤

図④



図⑦

図⑥



図⑨

図⑧

